

No.1778長期継続大型地震推定前兆 9月初旬発生の可能性 否定

前報告では、多くの前兆関係から8/31±発生の可能性が示唆される認識が可能であったため、8/31±発生の可能性を考えました。但し、その場合最終認識極大に対する前兆終息が本日8/30であることが計算されました。

本日8/30午後時点で、前回報告のCH2, CH7, CH20, CH21 の4観測装置の前兆は継続中です。24時間程度内に終息する可能性は基線を見ていて考えにくい状況であることから、8/31±発生推定を考えた前兆関係認識が誤りであることが確実となりました。最も早い場合の可能性を考え、前兆関係を見ましたが、誤認識であったと云うことです。大変申し訳ございません。

最も早い場合の可能性を推定するため、改めて前兆関係を見直しました。その結果、最も早い場合の可能性として右のとおり関係の可能性が見いだせました。() がついた関係は未確認です。K6の8/29にBF前兆出現が確認できます。その後現在までの8/30には前兆はありませんが、今後出現する可能性もあり、出現した場合前兆終息が変更となりますし、出現した場合、8/29直前特異は否定されることとなります。

9/7±の可能性が() 付きの関係と他で2つありますが、他の多くは8/17±2 の可能性を示しています。

火山活動との関係ですが、8/8 極大で観測されている八ヶ岳近傍火山の噴火の可能性前兆は、8/31±で活動が無い場合は浅間山では無い可能性も出て参ります。過去例を調査しますと、2018年1/23噴火の草津白根山が噴火前兆極大から34日で噴火しています。浅間山での前兆極大から噴火までの長い日数は20日前後でしたので、八ヶ岳南麓にある程度近い、浅間山の北に位置する草津白根山もNo.1778推定地震活動に関連したものである場合、可能性は否定できません。9/12±6

右図はNo.1778推定領域内で、浅間山と草津白根山から各々半径50km程度の領域を複斜線で参考までに示しました。

いずれにしても、09月初旬発生の可能性は否定され、現状9/17±2 時期の可能性も否定できませんが、右上のとおり前兆終息時期に前兆終息が観測されるか等を継続観測し、前兆終息が確認でき、発生時期が推定できる様になりましたら続報させて戴きます。

初現 ↓	極大 ↓	終息 ↓	直特 ↓	推定発生 ↓	使用経験則 ↓
	12/12.5	7/9		9/18±	Tmap:Tpp=3.9:1
1/20(CH7)	4/14	①		9/17±	Tfap:Tmap=20:13
1/20(CH7)		7/31		9/7 ±	Tfap:Tpp=6:1
	(7/16)	8/30		9/14±	Tmap:Tpp=3.9:1
	(7/16)	8/24	8/29	9/7 ±	Tmap:Tpa=6:1
7/20(CH2)	8/9	②		9/15±	Tfap:Tmap=20:13
	8/27	③			Tmap:Tpp=3.9:1

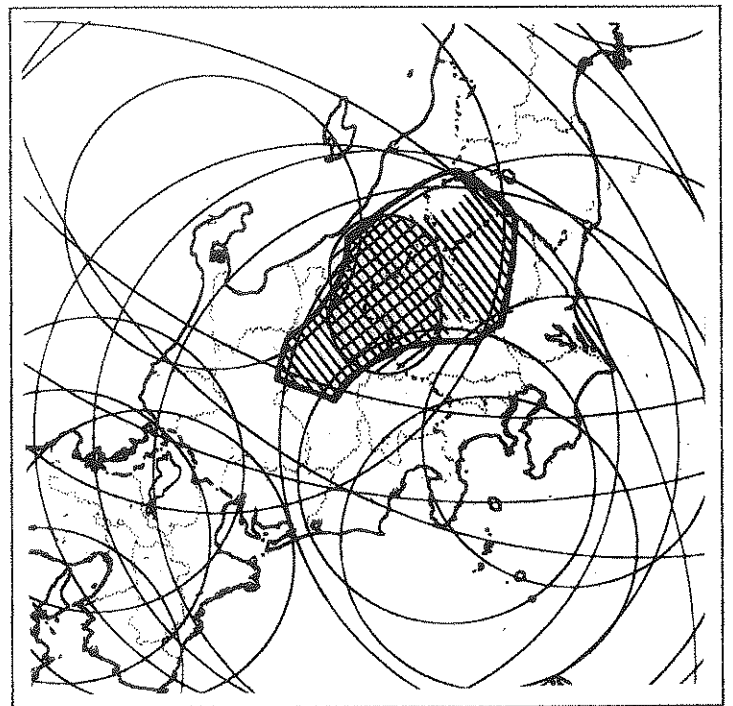
(直特=直前特異)

() =未確認関係

① 8/8±の苦だが前兆多数継続で不明

②推定終息時期=9/7 ±

③推定終息時期=9/12±



◆推定領域：上図斜線域 (複斜線域=参考)

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：前兆終息確認後推定

但し最も早い場合=9月17日±2の可能性有

(9月7日±の可能性考え難いが前兆終息の場合は速報)

◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震 (火山近傍域)

(推定領域内火山 (浅間山or草津白根) で地震発生)

(と合前後して噴火が発生する可能性も示唆される)

◇推定地震発生時刻：午前9時半±1時間半

(又は 午後4時±3時間)

※本続報は本日E-mail及びFAXにて公開実験参加者の皆様に配信致しました「地震前兆検知観測情報」の一部を転載させて頂きました。ご了承下さい。